



文部科学省 日本語教師養成・研修推進拠点整備事業(近畿ブロック)
2024年度 第2回公開研修会

「登録日本語教員」時代を見据えた地域日本語教育の現状と課題
—地域国際化協会の視点、大学の視点—

ごあいさつ

関西圏の大学 15 校、日本語学校 5 校、行政系 5 機関が加盟する「文部科学省日本語教師養成・研修推進拠点整備事業近畿ブロック」(拠点校:神戸大学、詳細は[こちら](#))では、2024 年度より、「登録日本語教員」時代を見据えた公開研修会を継続的に実施しています。

本年度の第 2 回研修会では、「地域日本語教育」の問題を取り上げます。3 名の講師をお招きし、地域国際化協会による様々な取り組みの実態や、大学の日本語教師養成課程での関連の取り組みについてお話をいただいた後、登録日本語教員養成や、養成課程の教師教育者研修における「地域日本語教育」の位置づけについて、参加者の皆さまと意見交換を行いたいと存じます。

年末のご多用中の時期とは存じますが、日本語教師・教師教育者の皆さま、日本語教師を目指しておられる皆さま、小中高の先生がた、行政の皆さま、地域の皆さまはじめ、この問題にご関心をお持ちの多くの方々のご参加をお待ちしております。

記

日時 2024年12月22日(日) 13:00~15:00

会場 大阪 ヒルトンプラザウェストオフィスタワー8 階会議室

〒530-0001 大阪市北区梅田 2 丁目 2 番 2 号 (TEL:06-6341-3334)

参加費 無料(要事前申し込み、先着順) <https://forms.gle/PrE3PATsDhWtBaoi6>

問合せ先 拠点事業責任者 石川慎一郎(神戸大) iskwshin@gmail.com

プログラム

13:00-13:05 開会あいさつ・趣旨説明

齊藤美穂氏 (神戸大/拠点事業支援部会世話役)

13:05-13:25

第 1 講演「地域における日本語学習支援の体制づくりに向けた京都府国際センターの取り組み」

講師: 近藤徳明氏(京都府国際センター)

13:25-13:45

第2講演「兵庫県における地域日本語教育の状況と兵庫県国際交流協会の取組について」

講師:篠原典子氏(兵庫県国際交流協会)

13:45-14:30

第3講演「地域日本語教育に大学がどう関わるか:実践を通して考える」

講師:松本理美氏(大阪樟蔭女子大学)

14:30-15:00

質疑とテーブルディスカッション

コーディネーター: 齊藤美穂氏

講師紹介と講演の概要

第1講演



講師: 近藤 徳明(こんどう のりあき)氏。

公益財団法人京都府国際センター事業課長。平成17年4月、財団法人京都府国際センター入職。センターの重点事業が国際理解・交流から多文化共生にシフトする過程で日本語学習支援、災害時支援事業を担当。市町村、市町村国際交流協会、日本語教室ネットワーク組織などと連携・協働することで府内の多文化共生推進体制整備に努めている。平成28年の熊本地震の際には災害多言語支援センターの運営に従事。自治体国際化協会認定多文化共生マネージャー。文科省委嘱地域日本語教育アドバイザー。京都府地域日本語教育総括コーディネーター。総務省災害時外国人支援情報コーディネーター。

概要

京都府国際センターではこれまで日本語教室空白地の解消や学習支援者の育成、日本語教室ネットワークの構築など、市町村や国際交流協会、日本語教室との協働により府内における日本語学習支援事業を展開してきました。京都府における外国人住民の現状とともに取り組みの内容や課題について報告いたします。

第2講演



講師:篠原 典子(しのはら のりこ)氏

公益財団法人兵庫県国際交流協会 多文化共生課日本語教育総括コーディネーター。神戸 YMCA にて、留学生・生活者の日本語教育、日本語教師養成講座を担当。その後、マラヤ大学日本留学特別コースで予備教育に従事。令和3年度兵庫県地域日本語教育の総合的な体制づくり事業で実施した東播磨地域モデル事業での初期日本語教室を担当。令和4年より現職。

概要

兵庫県国際交流協会では、協会設立当初より日本語講座や学習支援者の育成などの事業に取り組んできました。地域日本語教室のセーフティーネットとしての側面にも着目、県内市町に働きかけ、平成 27 年には兵庫県の全市町に日本語教室が設置されました。現在は地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業に取り組んでいるところです。これまでの歩みと現在の外国人の状況、課題とそれを解消するための取組についてご報告します。

第3講演



講師:松本理美(まつもと さとみ)氏

大阪樟蔭女子大学特任 I 号准教授。博士(文学 立命館大学)。立命館大学法学部を卒業後、地域子ども支援塾を開設。30 年間塾長を務めた後、2015 年より大学院において外国ルーツ高校生を含む『高校生日本語作文コーパス』構築と複文構造についての研究を行う。大学等の留学生日本語科目、初年次教育科目等の非常勤講師を経て、2023 年 4 月より現職(日本語教育課程担当)。

概要

全国的に「日本語指導が必要な児童・生徒」が急増していますが、2024 年、東大阪市の当該生徒は 500 名を突破しました。当該生徒が 1 校に 50 名を超える小学校が現れ、95%以上の中学校に 1 名以上の当該生徒が在籍する現場に、地域の日本語教育・支援は追いついていません。このような状況下、地域日本語教室や小学校など多様な日本語教育実習を実現し、多くの日本語教育・支援者を輩出している大学の日本語教師養成課程の課題と展望について考えます。